

「一流になりなさい。それには、一流だと思ひ込むことだ」という本からです
役割はね、自分の長所を発見したらよい。自分の長所を活かす先に役割がある。

生まれたからには役割がある。私が社会人の始点とした言葉です。仕事の中に発見できる自分の役割は、意外と発見することに時間を要する物です“この仕事は自分に合いません・・・” そう口にする若者にいつもこう言います。「自分に合う仕事なんて世界に一つもないよ。まず自分が合わせてみるんだよ」もちろん船井先生から教えられた発想です。自分に長所などあるだろうか？人間は疲れ、自らの未来が一瞬でも見えなくなると、自己否定の感情に支配されます。プラス思考を教えられている私も、もちろんそうでした。どんな大変な時でも、困った事や失敗も、自分を未来へと導いてくれる道標。そこから学べばよいのだと、あれほど先生に言われても落ち込んでいる自分がそのときいました。やはりプラス思考をしながら、いまの目の前の出来事から学ぼうとする姿勢は、人を成長させる礎だと思ひます。落ち込んでいる時間をどれだけ短くできるかが、成長のスピードを決めるからです。船井先生は、吉田松陰という人物を十代の頃から研究しています。吉田松陰は、長州、いまの山口県萩に生まれた武士。幕末明治維新の論理的支柱になると同時に、私塾松下村塾で 80 名弱の青少年を教育し、幾多の偉人を生み出しました。松下村塾の OB たちが、維新の導火線に火をつけたと思ひます。松陰が有名な松下村塾で教えた期間は 13 ヶ月にすぎません。松陰は、安政の大獄で処刑されるのですが、そのとき弱冠 29 歳でした。塾からは、伊藤博文、山県有朋という 2 人の総理大臣が生まれ、高杉晋作や久坂杉蔵のような維新を引っ張った志士もいます。わずか 13 ヶ月で 29 歳の松陰が、これほどの偉人を生み出した秘訣はどこにあるのでしょうか。船井先生は、松陰の教育法には 6 つの原則があったといいいます。1. 自信を持たせる 2. 使命達成法を教える 3. 至誠で生きる大切さを教える。4. 勇気を持たせる。 5. プラス思考。6. 約束を守る。この 6 点が松陰の教育法 6 原則で、青少年にこれだけを教えたことで人材が輩出したというのです。松陰がまず語ったのは、志を立てよ、ということでした。“志を立てて万物の源となせ”幾多の若者を奮い立たせたこの言葉は、どんな道で役に立って生きるのか、まずその道を考えなさい。という意味です。それが人生の入り口になるのだと、松陰は語ったのです。まさに、役割があるのだと船井先生が語る意味と私には重なって感じられたのです。“己が真骨頂を得た後、工夫の道につくべし”真骨頂とは、長所のことです。自分の長所を知ってから、道、生きる道を考えればよいのだよ、そう松陰は語りました。「長所とはね、いま君が役割を果たすための最大の武器なんだ。ということは、君の長所を見つけていけば、君の役割にぶつかるのだよ」そんな先生の言葉を聞きながら、少しずつ元気がみなぎっていくから不思議です。“人に賢愚ありといえども、一、二の長所なき人はいない”松陰と先生の共通点は、人生に立ち向かっていく勇気と道筋をわかりやすく伝える点にあります。どんな人間も、これだけは得意！と断言できる長所が一つはあるでしょう。ない？ないと思うなら探せばよいのです。まず自らの長所を見つけるために働くといってもよいと思ひます。役割とは、自らの長所を活かして働くうちに必ず見えてきます。松陰は長所発見の名人でした。一つの種を土中から探しに探し、ほらこれが君の長所だと、当人に見せて絶賛するのです。

“この仕事は自分に合いません・・・” そう口にする若者に筆者は何といひますか？

()

松陰の教育法には 6 つの原則とは何ですか？

() () () ()

() () () ()